



発行所
株式会社文化時報社
京都市下京区猪熊通り
塩小路下ル(☎600-8243)
電話 (075) 371-0159
FAX (075) 371-5803
振替 01010-3-188
購読料 6ヵ月14,700円
(千共) 1ヵ年29,400円

臨床宗教師養成が加速 宗教関係学校連携を

人々の苦悩や悲嘆に向き合う「日本版チャプレン」を養成する臨床宗教師の動きが加速している。龍谷大学は1期生12人を輩出し、次年度から学外や他派の宗教者を受け入れることを表明。今後、種智院大学なども講座開設を計画しており、養成機関を持つ学校が連帯する「臨床宗教教育ネットワーク」も、拡充される見込みという。

日本版チャプレンの養成へ

臨床宗教師は、病院や被災地など、公共空間で宗教の分け隔てなく心のケアを実践する宗教者を指す。東日本大震災以後、故・岡部健医師の呼びかけで、東北大学大学院の「実践宗教学寄附講座」が先駆けとなり平成24年に養成を開始。日本スピリチュアルケア学会のメンバーを中心に、「一つの大学で独占せず、全国で養成を」と方針を共有しており、今年度から



龍谷大学大学院実践真宗学研究科で養成が始まった。昨年6月には、発足の中心となった東北大学、

龍谷大学、上智大学が臨床宗教教育ネットワークを組織。すでに2度の会合を開き、スピリチュアルケア師との連携も含め、宗教の枠を超えて協力体制を築く。今後、同様の仕組みを導入した鶴見大学や、開講を予定する種智院大学などへも加盟を呼びかけるという。

次年度から募集の開口を広げることが明らかにした。実践真宗学研究科の学生以外の他派宗教者にも門戸を開き、寄り添う僧侶の養成を強化する。

またシンポジウムでは、1期生に修了証を授与。東北での実地研修や、自らが傾聴した人になつて活動を振り返る「会話記録」などのカリキュラムを修めた12人が、臨床宗教師としての一歩を踏み出した。

谷山准教授は、「僧侶に悩みを話したい人は多い。潜在的なニーズに応えることで世の中を変えられる力に」と総括。研修主任を務めた鍋島直樹龍谷大学教授は、受講生一人ひとりに手製のメダルをかけ、「これからは一緒に活動する仲間。解決のつかない問題に対し、腹を据えて聞く事を身に着けたと思う。一人ひとりが自らの死生観をバックボーンにして活動を」と呼びかけていた。